

## 先生のための 農村ホームステイ

北海道の若手農業者が集まる「道農協青年部協議会（JA道青協）」では、2013年から新しい活動に取り組み、いま



ホームステイ「食の大切さ」を伝えるプロジェクトです。

これまでも、子どもたちの農業体験や学校へ出向く出前授業など、各地域のJA青年部は食育活動を熱心に続けてきました。この活動をもっと深めるには、子どもたちを指導する「学校の先生」に農業の現場を体験してもらい、一緒に「食と地域の大切さ」を子どもたちに伝えていこうというプロジェクトです。

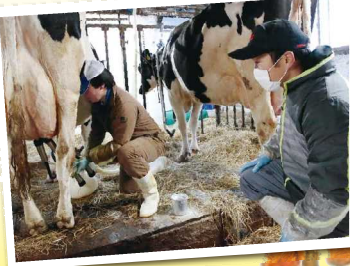
学校の先生は、  
教わるのも上手でした。

酪農家 関口真也さん

を体験するだけではなく、農家の家に泊まって、食事をともにし、話し合うことも大事な1泊2日のプログラム。2016年は全道12の地域で実施され、そのひとつ、枝幸町の牧場を訪ねました。

## 同じ町で暮らす 酪農家と先生

関口真也さんは38歳、3代目の酪農家です。青年部の役職を務め、農村ホームステイ事業のこともよく知っていたことが



ら、「自分も受け入れを体験してみよう」と手を上げました。

2016年の春から枝幸町立音標小学校に赴任した則座勝己さんは36歳。児童の保護者から農村ホームステイの話聞き、「町の基幹産業のことをぜひ知りた」と自ら希望しました。

同じ町に暮らしていても、今回が初対面の2人。年齢が近いこともあって、1日目の夜はいろいろな話ができたとそうです。

「餌やりも搾乳も初めての経験。ひとつひとつの作業に興味

# 学校の先生 × 若手農業者 ただいま授業中

音標小学校 & 関口牧場 [枝幸町]



酪農の先生から、  
体験授業を受けました。

教師 則座勝己さん

問してくれるので、とてもやりやすい」と話してくれました。

## 自分の体験を 教育の場で生かしたい

則座さんは北海道での教職を希望し、4年前に京都から礼文島の小学校へ赴任。そこで、漁師さんに協力してもらい地域の産業を学が授業を行い、「いまの子

どもたちには体験授業が必要」という実感を得ていました。

「関口さんは、牛に与える飼料は必ず自分の口に入れてみるそうです。牛との接し方や気が配りも、間近で見てもわかったことがたくさんある。時間と手間をかけてもらった分、この経験はぜひ音標小学校でも生かしたいと思います。」

今年5年目を迎えるプロジェクトは、まだ学校への周知が充分に行き届いておらず、多忙な

## CONFA MEMO

### 農村ホームステイとは？

農業体験だけでなく、農家宅に泊まることで、より農村の魅力を実感できる。いのちや土にふれ、食事を共にすることは、「生きる」ことを考えるきっかけになり、特に、都会からの修学旅行が増加している。

職種同士のため調整が難しいなどの課題もあります。それでも、実際の参加者からは「体験してよかった」という声が強く、共通点である「地域」について話し合うことで、お互い視野が広がったという成果も生まれています。教育のプロと農業のプロがつながるプロジェクト。食育活動の広がりがおおいに期待できそうです。

「お客さんではなく、家族と同じように、なるべくふだんの作業をやってもらいます。牛は知らない人を蹴ることもあるので、そこはしっかりと注意しながら」と関口さん。則座さんの仕事ぶりについては、「先生なので探究心が旺盛ですね。どんどん質

